

＜株式会社エフエム東京 第 4 2 6 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：平成 28 年 3 月 1 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	ロバート・キャンベル 委員
川 上 未 映 子 委員	

◇欠席委員（1 名）

秋 元 康 委員

◇社側出席者（9 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
植 田 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（1 名）

森 田 マルチメディア放送事業本部 ゼネラルプロデューサー

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 25 分）
『山下達郎の JX グループ サンデー・ソングブック』
2016 年 2 月 21 日（日） 14:00～14:55 放送

＜議事内容＞

議題 1：最近の活動について

■無料デジタル放送「i-dio(アイディオ)」プレ放送開始について

本日、2016年3月1日（火）12時より、無料デジタル地上波放送「i-dio」が福岡、大阪、東京でプレ放送を開始します。

「i-dio」は、地上アナログテレビ放送終了後に空いた周波数帯を利用して創設した、テレビでもラジオでもない、全く新しい“第3の”放送です。映像・音響・データなどデジタルデータであれば何でも送ることが可能です。また、既存のラジオ、IPサイマル、音楽配信サービスとは異なり、ハイレゾ級の高音質サウンドでありながら、通信ではないため通信料がかかりません。リアルタイム放送・蓄積型放送のいずれも可能です。

具体的な放送内容としては、デジタル地上波最高音質の音楽やニュース・カルチャーを発信する「TS-ONE」、走行場所にに応じて15分先の天気や交通情報を教えてくれるドライバー専門放送「アマネク・チャンネル」、24時間、JazzやClassic、ポップスやロックの名曲が楽しめる「i-dio Music Selection」(3ch)、映像クリエイターが参加する「クリエイターズ・チャンネル」など、全て無料で楽しめます。

『i-dio』を楽しめるデバイス（受信端末）

現在市販されている受信機器として、SIMフリースマートフォン「i-dio Phone」が全国の家電量販店、インターネット通販、TOKYO FM 公式 EC サイト「Shops. Love」で発売中です。また、『i-dio』チューナーを無料で貸し出すモニターも募集中（10万人）です。

さらに車載用の Tuner Box（仮称）が2016年4月に発売予定です。今後も受信機器はオーディオ機器、カーナビゲーション、組み込み型情報通信向け機器など i-dio の幅広い用途にあわせて拡大してまいります。



▲SIMフリースマートフォン
『i-dio Phone』



▲『i-dio Wi-Fiチューナー』
（非売品）



▲車載用 TunerBox(仮)
2016年4月発売予定

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

■ダイジェスト報告に説明を付け加える。放送免許というのは通常、ラジオは音声だけ送るための免許、テレビは音声と映像を送るための免許、と流す電波によって免許が異なる。i-dio はデジタル放送だが、この免許は音声も映像も画像も、基本的に何でも送信可能な電波免許である。この免許があることによって、インターネット上に掲載されているデジタル素材は、i-dio 上であれば一通り何でも送信可能になった。つまり、現在のインターネットメディアでできていることが、放送波でシームレスに楽しめる仕組みのメディアである。

i-dio の放送局としての意義は、「安全・安心」と「国民の豊かな生活を応援する」ということが 2 大テーマになっている。この「安全・安心」の意味するところは何かというと、例えば地震の際など、携帯電話に通信で危険を知らせるメールが届くことがよくあるが、実際にはその地域には情報が届いていないことも少なくない。通信では 1 万人、10 万人に大量に同じメールを複送していることから、メールが詰まってしまうことがよくあるのだ。よって、本当の危機の際には、危険を知らせるメールが実際に届いたところ、届かないところで、運命が大きく変わる。その運命を変えるメールが届かなかった体験から、i-dio のチャンネルのひとつ、「アマネク・チャンネル」が生まれた。

これは車を運転中の方をターゲットに放送するチャンネルなのだが、この制作会社の社長が以前、ホンダに勤務していた際の体験から、この番組内容の発想を得たことから始まった。

東北の震災の際、ホンダでは自分たちのインターネットサービスを使用して“大津波が来る”、という危険を近隣にいる自社ユーザーに知らせようとした。だが、そのとき確かにメールを送ったにもかかわらず、津波が来る様子を伝えるテレビ報道を見ていると、海の方に走っている車もあるし動けない車もあるというショッキングな現実を見た。

震災後、3 月 11 日にメールを送った中でご存命の 700 名のユーザーに調査したところ、結果的には「送ったはずの警報メールは届いていなかった」ことがわかった。「メールが届いていれば救えたかもしれない命」の現実を目の当たりにし、「必ず届くものが放送」であると考え、通信をいい意味で補完し「生命を守るチャンネル」の構想を練った。それが即ち、「あまねく正確な情報を届ける」という本来の放送の在り方を目的とした「アマネク・チャンネル」である。

その「安全・安心」の意味をもう少し広げると、情報セキュリティにつながっていく。現代はいわゆる IoT (Internet of Things) の時代で、何百億といろんなセンサーがありとあらゆるところに出回っている。その膨大なデータを吸い上げて集積したものが、いわゆるビッグデータと呼ばれるものを形成している訳である。あ

まり知られていないことだが、各家庭の中にある、さまざまな家電に付いたセンサーがインターネットウイルスをまき散らすような時代になってきている現実がある。極端な話だが、アイロンに付いているセンサーが、家じゅうのセンサー類に対してウイルスを放出し、重要な家電がコントロール不能になった、といったような事例も実際に数多く出ている。同時に国のホームページなどは、諸外国から何万回もアタックされ、常に外部からの攻撃と戦っている。

このようなことから、「通信」というのは常に誰かに乗っ取られる可能性がある、つまりハッキングされる可能性のあるインフラであることを示している。そこで、情報をハッキングされない重要伝送経路として「放送波」が使えるのではないかと、という発想から「TS-ONE」というチャンネルを立ち上げた。このチャンネルは、IoT時代の情報セキュリティに活用することを目的に「安全・安心」を電波で届けよう、という大きいテーマの傍ら、「国民の豊かな生活を応援する」というテーマも同時に引き継ぎ、無料で最高音質の音楽放送も出そう、という考えでスタートした。つまり、i-dio は単純にアナログ・ラジオがデジタル化された、ということだけではなく、「放送波を人々のあらゆる生活に役立てよう」という深い意義のもとに始まった事業である。

i-dio は、本日より東京・大阪・福岡でサービス放送として音だけスタートしているが、順次、画像・映像など他の仕組みを蓄えながら、この夏頃にはメインチャンネルである「TS-ONE」チャンネルと「アマネク・チャンネル」が開局する。本日はそのスタート日にあたる。

○これは普通のスマートフォンなどでダウンロードできるのか？

■スマートフォンで i-dio と検索するとアプリケーションのダウンロードができる。受信するためには、アプリケーションにプラスして専用チューナーが必要である。

○TOKYO FM にとってのビジネスの旨みというのは、どういうところなのか？ 伝送路とともに、デジタルコンテンツを新しく開発していくということか？

■このデジタル放送局の収益モデルは、一般的に考えればもちろん広告もあるが、「安全・安心」のビジネスに対して帯域を貸し出す、という収益もある。さきほど申し上げたが、「通信」というのは常に情報セキュリティの危機を抱えている。しかし、「放送波」にはその危機がない。だから、「通信」だけのセキュリティをしている企業に対して、「放送波でセキュリティの安心を買ってもらおう」ビジネスをする。

具体例を挙げると、ある銀行に対して放送波の帯域を貸し、ATM のインターネットセキュリティを部分的に放送波にする。それにより、放送波なくしては完成しな

いようなセキュリティが構築される。放送波は外的要因から突破されない。その銀行にある資産は、さまざまな外部要因から成る攻撃に対して負けないセキュリティで守られる。このような放送と通信のコンバージョンを開発することで、多様化した収益モデルを目指している。

■これは将来、かなり先の話になるのだが、現在の TOKYO FM はアナログの FM 波を持っている。しかし、少し前には考えられないほど、世の中のあらゆるものがデジタル化してきている昨今、デジタルコンテンツを取り込み、また自分たちもデジタルの世界に組み込まれるためには、デジタル FM 放送というのはラジオメディアのひとつの進化形として必ず考えなければいけないことである。おそらく、アナログ波だけの TOKYO FM というのは、次世代でのメディアの中では戦っていけない存在になると思う。

そういう意味でも i-dio は世の中のあらゆるデジタル化の渦における大きなインフラのひとつとして、進む未来を展望した事業だといえる。それが 5 年先なのか 10 年先なのか、今はわからないが、その時代は予想以上に早く、必ずやってくるであろうと考える。

○radiko をよく利用するので、これまでより音が良くなる、ということであれば、この放送に十分な期待が持てると思う。

■i-dio は radiko の 5 倍～6 倍くらい音質がいい。よって音楽が目的でラジオを聴取する人にとっては、より良い環境で聴いていただくことができる。また過渡的なソリューションではあるが、現時点でのカバーエリア以外のところでも、電波が届くようになるまでの間、IP サイマルでの聴取が可能になる。

○ここでは、TOKYO FM 以外の放送局のコンテンツも聴取することができるのか？

■現在 5 チャンネルあるが、全く新しい放送局なので、TOKYO FM の放送でもない、それぞれ別の会社が独自に運営する放送局となる。

○これからもチャンネルは増え続けていく、ということか？

■今後も増え続けていく。

○アメリカだとケーブルラジオがたくさんあるが、そのような放送局になっていくイメージがあるが？

<第 426 回放送番組審議会議事録>

■いわゆる多チャンネルの作りの放送局となる。新しい事業を育て上げるためには時間がかかる。テレビのBS放送も消費者の生活の中に定着するまでには10年くらいかかっている。つまり現在のところはまだ、地上波の80.0MHzが当社の事業の中心である。しかし、来たるべき完全デジタル社会に向けて、当社の準備が始まった、と考えるだけであればと思う。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『山下達郎の JX グループ サンデー・ソングブック』

【放送日時】 2016年2月21日（日） 14:00～14:55放送

【番組概要】

本日もご試聴いただくのは、『山下達郎の JX グループ サンデー・ソングブック』、2月21日(日)放送回のダイジェストです。

この番組は“最高の選曲を最高の音質で”をキャッチフレーズに、山下達郎の膨大なレコード・CD コレクションから、1950～1970 年代のオールディーズを中心に選曲する音楽プログラムで、1992 年の放送開始から 23 周年、2015 年 10 月には放送 1,200 回を迎えた人気長寿番組です。

当日は珍盤・奇盤特集と題し、山下達郎が所有する膨大なレコードの中から珍しいレコードを紹介する人気企画を放送しました。



▲山下達郎

当日のオンエア曲

- MEDAKA NO GAKKOH (めだかの学校) /SNUFF “SCMINKIE MINKIE PINKIE” (1996)
- SHE LOVES YOU (INSPIRED BY DR. STRANGELOVE)/PETER SELLERS (1965)
- ゴジラのテーマ (アルバム・バージョン)
/THE EDGE “WELCOME TO GODZILLA ISLAND” (1997)
- ゴジラのテーマ (シングル・バージョン)/THE EDGE (1997)
- BLACK DOG/KEVIN KMETZ “GOD OF SHAMISEN” (2008)
- 迷い道/少年探偵団 “恐怖の人間カラオケ” (1979)
- 与作/少年探偵団 “恐怖の人間カラオケ” (1979)
- 涙のラーメン/こまどり姉妹 (1963)
- LET’ S ONDO AGAIN/アミーゴ布谷 “レッツ・オンド・アゲイン” (1978)

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○本当に面白かった。しかし、この手の内容に対して真剣に感想を言うと、野暮になる感じがする。人間カラオケを今回初めて聴いたが、この発想は思いも寄らなかった。山下さんの解説も過不足がないし、初めて聴く人でも楽しめる企画だと思う。ただ言えることは、あくまでも面白がって聴くものであって、あまり論じる内容ではなかったと思った。

○山下さんがこれだけの音源を良く集めた、そしてよく持ち続けているな、と驚いた。通常であれば音源は必要かどうかを取捨選択するものだが、とにかくどんな音源も面白がって聴いているのだな、と感じた。さまざまな音源を収集し楽しみながら繰り返し聴くことで、彼の豊かな音楽活動に活かされているのだと感じた。

○長寿番組ならではの安定感があり、すごく安心して聴けた。珍盤・奇盤特集、ということであったが、音楽のスクラップブックのような感じで、捨てるのも惜しい、でもそんなに聴くわけでもないというものを並べていたように感じる。その一方で、選曲の時代もバラバラだったので、脈絡がない構成のように感じた部分もある。もっとテイストを絞って並べた方が、流れができたように感じた。

また、山下さんのその当時の状況やこの盤の入手経緯、捨てきれなかったのは何故なのか、などのそれぞれのバックストーリーをもっと深く聞いてみたかった。でも、全体を通して、とても面白かった。

○ラジオというのは、出会い頭に新しい音楽に偶然出会える喜び、というのが魅力のメディアだと思うが、今回はその最たるもので、この番組でなければ絶対に聴けないような音楽ばかりを聴けてよかった。最近は音楽も単曲買いであったり、聴きたいものしか聴かない環境が安易に成立してしまうので、とても刺激的な内容であった。その一方で、これは音楽をたくさん知っている山下さんでなければ成立しない企画でもある、と感じる。

また、多くのリスナーは山下さんの家に遊びに行ったような気分で聴いているのだと思うが、初めてこのプログラムを聴いた人にとっては、とても戸惑う企画だろうな、とも思う。初めてのリスナーを取り込むためには、何も言わなくても、この曲面白いでしょう、というのにプラスしてこの曲をどういう経緯で手に入れたか、などの山下さんのコメントがより多いと珍盤・奇盤特集の中にも、物語が生まれるのでは、と思った。オンエアした曲は全て、山下さんが持ってきているのか？

■この企画は2年に1回実施している企画で、オンエアしている楽曲は、全て山下

さんがご自宅のアナログ盤を、番組用にデジタルリマスタリングして持ってきてくださっている。

○音楽が好きでラジオを聴いているので、今回は個人的にも、とてもお気に入りの企画だった。番組審議会の席上でこんなに笑ったことあるかな、と思うくらい面白かった。この番組は本当に名番組で、日曜日の午後のこの時間に山下さんの声が流れるというのは長年の刷り込みでリスナーにとっては欠かせない番組。ちょうどいい時間にこの脱力加減というのは、めったにない企画だと思うが、大変楽しく聴いた。

また、面白く聴きながらも考えていたことは、最近のラジオ選曲が均質化していることについてであった。どのステーションでも適度に耳障りのいい曲をかけているように感じる。また、局のヘビーローテーションになる曲は、レコード会社のプロモーション関係なのでは、と感じさせる曲ばかりだったり、今のラジオ局の選曲構造というものに思いを馳せた。

そういう意味で言うと、今回の企画のように、ちらっとマニアック性が出る選曲というのは、音楽ファンにとってはたまらないものがある。ここまでエキセントリックな選曲は山下さんならではだと思うが、やはり、音楽好きのリスナーにとって、個性あふれる選曲は、ステーション選びのポイントになると思う。

以前の Inter FM の選曲にそのような個性が垣間見える部分があったが、現在は制作の方向が変わってしまったようで、いい意味での個性がなくなったと感じていた。クオリティが高い、低い、という意味ではなく、ラジオ局の個性として、いろんな多様性があるのでは。

そういう意味では、i-dio が希望を叶えてくれるのでは、と期待している。今回は、ラジオにおける選曲というものについて考えさせられる回であった。

■この番組は山下達郎さんのライフワークのひとつにもなっていることと同時に、当社を代表する番組のひとつである。最近では 10 代のリスナーからもお便りをいただいたり、絶対に古くならないエバーグリーンな番組とはこういうことである、と我々も感じている。

○もっとマニアックにしてほしいという声はあるか？

■今回の珍盤・奇盤企画特集の裏テーマとしては、まさにそのマニアック、という部分があった。この内容はちょうどレーティング週のオンエアであった。レーティング週のアーティスト・プログラムはヒット曲をオンエアする傾向にあるので、その裏をかく、ということからこのテーマにした。

■サンデー・ソングブックは、いわゆるラジオネームというものは受けず、フルネームのお便りしか対応しないなど、山下さんのポリシーをずっと貫いている番組である。東北の震災1年後には「追悼番組」をオンエアして放送文化基金賞を受賞するなど、シリアスなテーマに対しても、今回のような珍盤・奇盤特集の際に対しても、プロとしての徹底した物事の突き詰め方が変わらず、その姿勢は非常に尊敬すべき点であると感じている。今後も、この番組ならではの企画を山下さんとリスナーのみなさんと一緒に作り上げていきたい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」
3月26日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面:TOKYO FMサービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、4月5日(火)に開催することを決めた。